

# 心臓は“沈黙の臓器”ではないと 思っていますか？

川口市立医療センター

循環器科

いそ  
磯

かず き  
一 貴



胸痛や動悸を感じたら“心臓の病気かもしれない”と不安に思うかたは多いのではないのでしょうか。一方、胸痛や動悸がないかたで心臓病の心配をしているかたはどれだけいるのでしょうか。

最近、心房細動という不整脈が注目されています。心房細動は簡単にいうと、通常は規則正しく動いている心臓が、心臓内で伝わる電気信号の異常により、秩序を失って脈が乱れている状態です。発作的に起こる場合は自覚症状が強く、動悸や目眩、脈の乱れなどを感じるかたも多いのですが、初期はそのような自覚症状の持続時間が短いため、受診しなかったり、受診しても病院に着いた時には症状は消えていたり、といったこともよくあります。さらに病期が進行し、心房細動が持続するようになると、心房細動に体が慣れてしまい、自覚症状を感じなくなります。心房細動は脳梗塞や心不全に加え、腎機能障害や認知症の原因になることが知られていて、早期治療によりリスクを下げられることがわかっています。早期発見が重要ですので、無症状のかたでも、ぜひ定期的な健康診断を受けてください。他に不整脈に気付ける手段としては、自己検脈（手首に指先を当て、自分で脈を確認すること）で脈の乱れを確認する方法があり、最近の血圧計では脈の不整を確認できるものもあります。どんなささいなことでも大丈夫です。おかしいと思ったら、かかりつけ医にご相談の上、遠慮なく当院循環器科を受診してください。